

第 5 回 練馬区教育振興基本計画懇談会要点記録

- 日 時 平成 23 年 12 月 22 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 30
場 所 本庁舎 19 階 1903 会議室
出席者 廣嶋座長、小林副座長、真島委員、長井委員、佐藤委員、斉藤委員、
伊藤委員、宮崎委員、玉井委員、石橋委員、渡邊委員、風間委員
欠席者 眞瀬委員、木下川委員、高井委員、田中委員
(事務局) 学校教育部長、学務課長、教育指導課長、総合教育センター所長、
施設給食課長、庶務課長、庶務課庶務係職員 2 名、ジャパン総研 2 名

案 件

- (1) 今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿等について
- (2) 練馬区教育振興基本計画答申案について
- (3) その他

配布資料

- (1) 練馬区教育振興基本計画 基本理念、基本的な視点、重点施策・・・資料 1
- (2) 練馬区教育振興基本計画について(答申)・・・・・・・・・・資料 2

1 . 開会

【座長】

ただ今より、第 5 回練馬区教育振興基本計画懇談会を開会します。

本日は、前回の会議で頂いた意見を踏まえて作成した資料 1 について、その内容を固めていただき、その後、資料 2 の懇談会の答申をまとめたいと考えています。

2 . 議事

- (1) 今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿等について
事務局より、資料 1 に沿って説明

【座長】

「今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿」については、懇談会より ~ の項目が挙げられましたが、この中から 1 つに絞ることは難しいので、委員から出されていた、緑豊かで暮らしやすい練馬区、地域に愛着を持つ練馬区民の存在、地

域における人材や団体が豊富という意見を踏まえ、地域全体で練馬区の教育を振興するという意味で、「地域の絆で育む」という観点をくくりとして、それを答申にも取り入れたいと考えています。まず、この点についてご意見を頂きたいと思います。

【委員】

絆というと個々のつながりのような印象を受けるので、もう少し広い意味でつながりを表すような表現のほうがいいのではないかと感じます。

【委員】

絆も大事だと思いますが、10年後を見据えると、ICT社会に順応した教育も欠かせないと思います。今、学校におけるパソコンの普及率は、東京都は7.8人に1台、鹿児島は4.5人に1台となっており、都市部の普及率が非常に低いという状態です。今後、電子黒板等の導入も考えられますので、そういったことから、ICT教育は重要と考えます。

【座長】

ICT等の具体的な取組については、重点施策の中で反映することになると思います。「今後10年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿」をくくる文言というのは、この答申の根本を成す目標的な意味合いのものです。そこで、これまで皆さんから頂いた意見からまとめた6つの項目全てに共通するものとして「地域の絆」という言葉で表してはどうかと考えました。もし、そういうものが必要ではなければ、6項目のみを列挙してもいいと思います。

【委員】

つながりというのは練馬ならではの長所だと思いますので、絆という言葉は非常に良いと思いました。これからの教育では、その辺りを重点的に打ち出していく必要があると思います。

【座長】

以前に、練馬区らしさが必要という意見が出ていましたので、それも意識して考えました。

【委員】

地域の絆というと、人と人の絆に限られるように感じます。それも確かに大切ですが、練馬区を象徴するものとしては、緑豊かな環境もありますので、そういう意味合いも含まれた表現にできれば、なお良いのではないかと感じます。

【座長】

環境も含めて「地域の絆」という言葉で表現しています。緑豊かな環境については、後の部分で出ています。

【委員】

「地域の絆で育む」というのは、基本理念の根底を表現する、非常にシンプルで良い言葉だと思うので、私は賛成です。個々の細かいことについては後で付け加えていけばいいと思います。

【委員】

私は、教育の根本は心身共に健康ということだと考えていますが、練馬区における教育の姿となると、区の特性を活かした「地域の絆で育む教育の姿」という表現でも良いと思います。

【委員】

「地域の絆」という言葉には、総合的な意味合いが含まれていると思うので、これで良いと思います。また、練馬区として今後何を大事にするのかということ考えたときに、その基本となるのは人と人との個々のつながりだと思います。そういう意味からも、絆という言葉で構わないと思っています。

【委員】

この6つを1つの言葉でまとめるというのは非常に難しいですが、ご提案のとおりでいいと思います。

【座長】

ICTや緑豊かな環境については、必要があれば、この後の「基本的な視点および重点施策」等の中に盛り込むことが可能です。ICTについては、これから10年先を見越すと喫緊の課題だと私も感じています。

「地域の絆で育む」という観点を入れることについては、概ねご賛成いただいたと思いますので、そのようにさせていただきます。

つぎに、「基本的な視点および重点施策」に移りたいと思います。まず、1「教育の質の向上」についてご意見等はありませんか。

【庶務課長】

今日、欠席されている委員、委員から事前に意見を頂いています。

委員からのご意見は参考資料として配布していますが、1の2つ目の「教員

が子供一人一人に向き合う環境づくりの推進」を、「じっくり向き合うことのできる環境づくりの推進」としたほうが良いというご意見と、21世紀型学力として、ICTを使いこなす能力についても言及してほしいという、2点のご意見を頂きました。

委員からは、1つ目の の1番目の「・」の、「幼稚園、小学校、中学校が連携した教育の質の向上」に、保育園も入れたほうが良いというご意見を頂いています。

【座長】

貴重なご意見だと思います。ICTについては、先ほど 委員からもご意見を頂きましたが、21世紀型の学力ということを考えると、重点施策はこれだけで十分なのかという検討も必要だと思います。

【副座長】

1つ目の の2番目の「・」に「地域の特色を活かした体験活動の推進」とありますが、あえて体験活動だけに絞るのか、一般的な教育活動として広く見ていったほうがいいのかという検討もしておいたほうが良いのではないかと思います。

【座長】

「地域の特色を活かした教育活動の推進」とすると大きなくくりになりますが、体験活動も含めてということですか。

【副座長】

そうです。体験活動にこだわるのであればこれでいいですが、通常の教育活動においても練馬の特色を活かした教育を推進するというのであれば、広い表現にしておいたほうが良いようにも思います。

【座長】

地域の環境を活かすというと、体験的な活動の部分がかなり多くなりますので、体験活動に特化したほうが良いのではないかと考えてこのように整理したのですが、今のご意見のような表現でも良いと思います。

【副座長】

そういう意見を踏まえた上でということで、このままでも良いと思います。

つぎに、同じ文章に「地域の特色」とありますが、今までの議論の中で、練馬らしさということが盛んに言われていましたので、あえて練馬という言葉を入れてはどうかと思います。

【座長】

検討したいと思います。

ここの部分について皆さんの意見を伺うのは今日が最終となります。細かいことでも結構ですので、お気付きの点があれば遠慮なくご発言いただければと思います。

委員から出されたような、文言の追加等の軽微な修正は可能だと思います。

【委員】

3「教育環境の充実」の「いじめや不登校の問題」にも関わってくるのですが、ここではいじめを受けた子供に対するフォローの部分に特化されているように感じるので、それを予防するという観点を、1の「教育の質の向上」などに盛り込めれば良いのではないかと感じます。

【座長】

具体的にはどのような文言を入れればいいでしょうか。

【委員】

例えば、学校の先生方や地域の方が子供たちの人間関係等を見守って、いじめや不登校をはじめとする悪い方向に子供たちが行かないようにするというような表記が盛り込めればと思います。

【座長】

対応だけでなく、予防という意味合いを出したいというご意見です。

【委員】

教員が子供一人一人にじっくり向き合える環境づくりをして、子供たちがしっかりと友達関係、人間関係を築くことができれば、予防にもなると思います。

【座長】

予防を入れるとすれば、「教育の質の向上」の2つ目が適当ということですか。

【委員】

いじめの予防については、親子、子供たち同士、親同士、教員同士などにおける人と人との関わりがとても大事だと思います。

私の地域では、地域での活動や体験学習の際に、学校の先生にも何人か参加していただくようにしているのですが、先生方が子供たちの教室以外での様子を知る上で非常に役立っています。そのため、「地域の特色を活かした体験活動の推進」の中にも、そう

いうことを組み入れてはどうかと思っています。

【座長】

学校と地域の連携については、どこかに入っていると思います。

【庶務課長】

資料1にある「2 家庭や地域と連携した教育の実現」の3つ目の、および資料2にある2ページの(2)アの中に入っています。

【座長】

委員のご意見の趣旨は、今言われたような箇所できみ取っているつもりですが、さらに明記することも可能だと思います。

1「教育の質の向上」について、ほかにご意見等はありませんか。

【委員】

教育の質の向上について、ここでは環境づくりばかりが書かれているので、教員自身が努力するというのもどこかに入れたほうがいいのではないかと思います。

【座長】

答申案には入っているのですが、表に出すという意味で、こちらにも明記したほうがいいように私も感じます。

【委員】

絆という言葉について、練馬区は、町会の加入率が40%と、他区と比較して非常に低いとか、70万8,000人の人口のうち、毎年4～5万人が転入出しており定着率が悪いなど、絆に欠けているように感じます。ですから、絆という観点は是非入れていただきたいと思っています。

加えて、基本理念の～を基本として、「将来希望が持てる教育」とか、「夢のある教育」というような、将来に向かった提言も必要ではないかと思います。

【委員】

私も、未来に希望が持てるということは非常に重要だと思います。例えば、キャリア教育においては、単に将来の夢を聞くだけにとどまらず、子供がその夢に向かってつぎのステップに進めるということが、教育の中では重要だと思うので、未来の具体的な部分に言及することも必要ではないかと考えます。

【座長】

ICTやキャリア教育については、既に中央教育審議会でも課題として取り上げられており、つぎの学習指導要領では全面展開になる可能性もあります。練馬区においても、キャリア教育や、先ほど出たコミュニケーションの部分は重要な視点の1つとして既に取り上げられていますので、もう着手しているという意味合いで、この答申には入れていないのだと思います。

【教育指導課長】

キャリア教育という言葉は、資料2 2ページ(2)アの中に入っています。座長が言われたとおり、キャリア教育については、これから本格的にやっていかなければいけない非常に重要な課題だと考えています。

【座長】

皆さんが言われているような意見は、答申の中には入っているのですが、資料1では内容をまとめ過ぎて分かりにくくなっているようで、整理のし直しが必要かもしれません。

【委員】

資料1と資料2は、どういう使われ方をするのですか。資料1だけしか出されないのですか、それとも、資料2も併せて出されるのですか。

【座長】

教育長に答申として最終的に提出するのは資料2ですが、大まかなくりの一覧として資料は添付することも考えています。

【委員】

基本的には資料2がメインで、資料1は参考資料となるのですか。

【座長】

そうです。資料2が本体です。しかし、今の皆さんの話を聞いていると、資料1の中にも、もう少し丁寧に入れておいたほうが良いように感じています。

1「教育の質の向上」について、未来型という部分をもう少し表に出したほうが良いということについては、そのようにできると思います。

続いて、2「家庭や地域と連携した教育の実現」、および、3「教育環境の充実」について、表に出して強調したいもの等はありませんか。

【委員】

資料1にある2の1つ目の の中黒に「産まれてから自立するまでの支援の充実」とありますが、「産まれてから」ではなく、妊娠した時から既に教育は始まっていると思いますので、そのような意味合いの表現にしたほうがいいのではないかと思います。

【座長】

確かに、以前にも、産まれてからでは遅いというご意見はかなり強く出ていました。ほかにご意見等はありませんか。

【委員】

2の3つ目の の「・」について、地元住民というのは、退職した段階の世代の方だけではなく、商店街の方等、もともとの練馬の住民の方のほうが中心だと思いますので、「退職した団塊の世代の方々および地元町会などの地域住民を活用」としたほうがいいのではないかと思います。

【委員】

町会を入れるのであれば、自治会も入れる必要があるのではないのでしょうか。

【委員】

それを言いますと、切りがないと思います。

【座長】

団塊の世代の方々の技術、能力、意欲などを活用するという意味合いで、このような表現になっているのだと思います。「退職した」という文言を削除すれば、広く含まれるので良いのではないのでしょうか。

【委員】

そうすれば現役の方も含まれるので、良いと思います。

【委員】

団塊の世代の方たちだけではなく、若い人が参加できるような仕組みももっとあればと思います。

【委員】

若い方たちが参加されれば、子供たちにとっても身近に感じられるし、そのような方に自分の就職や現在の仕事のことを語ってもらえば、キャリア教育にも非常に有効

だと思います。

【座長】

現在でもボランティア等で若い人が入っておられると思います。それを、個人的なつながりではなく、地域コーディネーターのような窓口をつくって、組織的に、かつ積極的に活用したいというのが、当初の趣旨だったのですが、これは団塊の世代や退職者ということにこだわり過ぎた文章になってしまっているように思います。

学校にも、若い人がボランティア等に入っておられるのではないのでしょうか。

【教育指導課長】

区内の大学や近隣の大学の学生は結構入っていますが、30代前後の年代の方の参加は少ないというのが現状です。

【座長】

キャリア教育などに関しては、若い方の協力も必要だと思います。

【委員】

若い人はICTの教育などで役に立てると思います。

【座長】

若い世代の方に参加していただきたくても、その世代は仕事があって参加できないので、退職した方、団塊の世代の方、および学生の方などの、比較的時間のある方が現実的な対象として挙げられているのではないかと思います。

【委員】

生活支援員等で、大学を卒業してもすぐには就職しないという方が、半年くらいの期間で参加しているというケースもあります。

【座長】

その辺りも視野に入れて、退職した団塊の世代だけに限定されないような表現を工夫したいと思います。

【委員】

私は小学校の学校応援団をやっているのですが、子供たちを見守ってくれる方が非常に不足しています。日曜日の校庭の開放時の指導員なども、募集をしてもなかなか来ていただけないというのが現状です。

【委員】

クラブ活動の指導者などでも、地域の方を活用していただければと思っているのですが、現在は、学校によって対応が違うという状況です。

ICTに関しては、今は中学生でもパソコンを使える子が多いので、インターネット犯罪の被害に遭わないための教育も必要だと思います。また、そのような現状であるにもかかわらず、特に年配の教員の方はその辺りが弱いように感じます。

キャリア教育については、私が参加した時、子供たちの反応が非常に悪かったのですが、大人が自分の体験を話すだけというやり方では、経験の少ない子供には理解できないと思います。そこで、例えば、学校の中におられる看護師、栄養士、カウンセラー等が仕事をしている様子を写真に撮って、それをパワーポイントで見せながら説明するなどの工夫をすれば、子供にも分かりやすいのではないかと思います。これからキャリア教育に関わる方たちには、そういう工夫が必要という意識を持っていただきたいと思いました。

【座長】

地域の人材を活用する場合、今話されたように、せっかく来ていただいたのに、子供の目線とずれたレベルで話してしまうというケースが結構あるのです。その辺については、学校との事前の十分な打ち合わせが必要だと思います。

【委員】

漫画の編集者の話でも、子供たちは全然興味を示しませんでした。今のキャリア教育には、子供が興味を持つような工夫が欠けているところがあると思います。

【座長】

指導法については学校にも研究していただく必要があると思います。今日は教育委員会の皆さんがおそろいですので、そういうことを学校に伝えていただきたいと思います。

【委員】

2の3つ目の に、「学校、家庭、地域をつなぐ仕組みを構築する」とありますが、小学校の場合、学校応援団というのがその仕組みに近いのではないかと思います。私は南田中小学校の理事をしているのですが、町会が主体となった防火訓練やもちつき等、学校を拠点として、地域の人に参加する活動がかなり盛んに行われています。さらに、小中学校は避難拠点にもなっており、学校、家庭、地域をつなぐという点では、それなりの成果を挙げていると思います。

【座長】

防災については、3「教育環境の充実」で触れています。子供の安全、地域の安全というのは一番大事なことだと思います。

これまでに出示された意見については、おおむね答申の中には反映していると思いますが、資料1の中では埋没しているものもありますので、整理し直したいと思います。

(2) 練馬区教育振興基本計画答申案について

座長および事務局より、資料2について説明

【座長】

答申案について、修正すべき箇所等のご意見等はありませんか。

【委員】

3ページにあるウの に「特別に支援を要する子供が年々増加している」とありますが、練馬区でもそのような状況があるのですか。

【学務課長】

現在、練馬区の小中学校を合わせた特別支援学級の在席児童・生徒数は1,000人を超えており、特別支援学級だけでなく通常学級にも配慮を要する子供が相当数在席しているというのが実態です。東京都全体を見ても、同様に、配慮を要する子供は増えていきます。

【委員】

本当にそのような状況なのであれば、そのような子供が増えないようにする対策も必要なのではないかと思います。

【委員】

増えないようにするというのは難しいと思います。

【委員】

毎年増えるということは、判断基準が変わったとか、周りの環境の悪化や経済的な問題など、何か原因があるのではないかと思います。そこを分析して対策を講じない限り、これについては結果を追い掛けるだけになってしまうのではないのでしょうか。

【学務課長】

増えた要因の1つとして、以前は障害という認識がなかったために、数に現れにく

かったという部分はあると思います。

ここでいう特別な支援を要する子供というのは、障害を持った子供であり、家庭環境等に起因したものではありませんので、増えないようにするというのは難しいです。したがって、そのような子供たちに対して一番良い環境を整備するというほうに取り組んでいるところです。

【委員】

3ページの上から2行目の は、「就学前教育」とあり、保育園とか幼稚園が含まれていると思うので、資料1で「幼稚園、小学校、中学校が連携した教育の質の向上」が「教育の質の向上」の中に挙げられているのと同じ考え方で、この も、基本的な視点2の「家庭や地域と連携した教育の実現」ではなく、基本的な視点1の「教育の質の向上」のほうに移したほうがいいのではないのでしょうか。

【座長】

検討します。

【委員】

3ページにあるウの に「教育の情報化」とありますが、今、情報の漏洩等が大きな問題となっていますので、情報の保護ということもどこかでうたっておいたほうがいいのではないのでしょうか。

【座長】

一般的には、情報教育とか教育の情報化という言葉は、情報モラルやマナーということも含めて使っているのですが、情報の保護というのは非常に重要な問題だと思いますので、そのような記述を書き加えてもいいと思います。

【副座長】

確かに、情報モラルについては、今、いろいろと言われているので、明記してもいいのではないかと思います。

【座長】

皆さんから頂いた意見は、2「検討の経緯」の中でほとんど反映していると思います。それを基にして、3「検討の結果」に資料1の中身を書き込んでいますが、今までの意見を聞いていると、ここについても、もう少し丁寧に書き込んだほうが良いように感じています。

具体的には、(2)「基本的な視点における取組の方向および重点施策について」では、

それぞれの基本的な視点に対する重点施策に当たる部分を、「そのために」以降で述べているのですが、そこにご意見を反映するような形で修正するよう検討したいと思っています。

5ページの(3)「今後10年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿」の5行目に、先ほどご提案した「地域の絆を育む」という言葉を入れています。また、6ページの4「むすびにあたって」の下から3行目にも「地域の絆」という表現を入れています。

【委員】

4ページの(2)のAの最後に、「教員が子供一人一人に向き合う環境づくり」とありますが、先ほどのいじめの防止の話も踏まえて、「お互いを尊重し合う」という表現を入れてはどうかと思います。

【座長】

お互いというのは、教師と子供の関係も含むのですか。

【委員】

子供も教員の立場を尊重しなければいけないし、子供同士も尊重し合わなければならないと思います。以前の懇談会の議論の中で、先生を尊重していないとか、親や先生に対する礼節が軽視されているという意見がありましたが、そういう問題にも通じると思います。ここに入れることが難しければ、ほかのところに入れてもいいと思います。

【座長】

人権尊重という意味合いであれば、どこかに入っていたと思います。

【委員】

人間尊重というと、大人の場合の表現になると思いますので、子供同士の場合は「相手を認める」というような表現のほうがいいと思います。

【委員】

2ページの(2)のAの に入れればいいのではないのでしょうか。

【座長】

それでもいいと思います。

【委員】

小中学生の子供たちが、妊娠した方や子育て中の方の体験の話などを聞く機会や、実際に赤ちゃんに触れ合えるような機会を持つことも、命を大切にすることにつながるのではないかと思います。

【座長】

そういうことが多く取り入れられればいいと思いますが、カリキュラムは学校が決めることであり、ここでそれを決めることはできません。そのような意見があったということは伝えたいと思います。

【委員】

前回までの議論で出ていた意見のうち、競争が必要という点がここには反映されていません。今、企業に入社してくる若い人たちは、あまりにも打たれ弱いという現状を見ているので、適切な競争を取り入れた知力・体力の向上ということも、どこかに入れたほうがいいと思います。

【委員】

今後は人間力を養う教育が重要ということだと思います。そこに競争も含まれると思います。

これからの教育について、今は、社内の会話は全て英語という企業も現れてきています。英語圏が45%くらいに上ることも考えると、今後は会話を中心とした英語教育にも力を入れる必要があると考えます。

最後に、いじめの問題に関して、私の子供もいじめを受けたことがあるのですが、教師は、いじめられることがいけないと言って、いじめられた側を指導されたのです。私は、その指導には非常に疑問を持っています。

【座長】

そのような指導は決してあってはならないことだと思います。練馬区では、いじめについてどのような指導をされていますか。

【教育指導課長】

いかなる理由があっても、いじめられた側を守るということを指導の第一原則として、それを徹底しています。

【委員】

今の学校では、いじめられている側を指導するということは絶対にありません。いじ

められた側の立場に立っての対応をしています。

【座長】

ほかにご意見はありませんか。

【副座長】

様々なことを盛り込み過ぎると総花的になってしまうのではないかというご指摘もありましたが、委員の皆さんの思いがこの中に入っているということが大前提だと考えています。

【座長】

今日頂いた意見を反映して最終的な形にしたいと思います。なお、細かい文言の修正等については、私たちに一任いただきたいと思います。

最後に、皆さんより一言ずつ、感想、ご意見等を頂ければと思います。

【委員】

私は、大学で教育や教職を専攻しておきながら教職という道を選ばなかったのですが、それでも教育に関わることができればと考え、今回この懇談会に参加させていただきました。ここで皆さんの意見を伺って、非常に勉強になりましたので、この経験を無駄にしないよう、教育現場以外の場所でも生かしていきたいと思っています。

【委員】

私は、自分の子育てが終わり、今の若い人たちと接する中で、若者に対して不満に感じる事が非常に多く、また、その子供たちを見ていると、子供たちだけではなく親の教育も必要ということを感じていたため、今の幼稚園や小学校がどのような教育をしているのかを知りたくて、ここに参加しました。

委員の皆さんの話を聞いて、学校の先生方は非常に忙しいということが分かったので、何とかして負担を軽減し、時間のゆとりができるような仕組みをつくって、先生方が本当にじっくりと子供たちと向き合えるような教育ができるようにしてほしいと思っています。

【委員】

私はボランティアを始めて10年になりますが、出前授業や、練馬区の実情や資源を活かした体験イベントを通して、子供たちが郷土愛や人間力を育むよう努力しています。そういう中で、今の生徒に接していると、イエス・ノーが言えないという子供が非常に多いので、イエス・ノーがはっきりと言えるような教育も必要と感じています。

【委員】

私はずっと転勤族で、子育てにはほとんど関わってこなかったのですが、子供が学校でいじめを受けたということもあったので、今の教育について知りたいと思い、ここに参加しました。自分の子供はうまく教育できなかったのですが、ここに参加して、いろいろな考え方があるということを知りましたので、それを孫の教育に活かせればと思っています。

【委員】

私の子供は、義務教育はもう終わっているのですが、公立の小中学校を経て、その後受験を何回か重ねていくうちに、いろいろと考えさせられることがありました。そこで、練馬区の教育は、今どうなっているのかが知りたいという気持ちもあり、今回、参加させていただいたのですが、私自身にとって、非常に収穫のある会でした。今後、自分の仕事の上でも教育は大きく関わってくると思いますので、ここで勉強させていただいたことを、ありがたく思っています。

【委員】

私は、一番下の子供が小学校6年生で、練馬区の教育については言いたいことがたくさんあったのでここに参加したのですが、皆さんの話を聞いていると、これまで知らなかったことや、様々な考え方を知ることができ、大変ためになりました。

現役の保護者の立場として、最後に言わせていただきたいのですが、資料1の2の2つ目の「様々な問題を抱える家庭への支援の強化」について、今、実際に家庭の中のお母さんたちはとても病んでいます。支援学級に通う子供が年々増えている原因も、生まれながらの障害がほとんどだとは思いますが、中には、生まれた後の周囲の大人の関わり方が影響しているケースもあるのではないかと感じています。そこで、資料2 2ページの(2)イの、「子育てに関する学びや話し合いの場や機会を設ける」ということは、是非実現していただきたいと望んでいます。

【委員】

私は保護者の代表として参加させていただきましたが、同時に、中学2年生の子供の一保護者でもあります。今、子供が原因不明の不登校が続いており、区の様々なカウンセリング等を使わせていただく中で、練馬区の子供は恵まれているということを実感しています。また、そのような観点からも皆さんのご意見を聞いていたのですが、子育てや生き方にはいろいろな方法があるということが非常によく分かりました。こういう話を多くの保護者の方に聞いていただき、母親ばかりでなく、様々な方に教育を支えていただけるようになることを希望しています。

【委員】

私は幼稚園の園長という立場でここに参加させていただきました。幼稚園というのは、初めての集団の場ですので、子供たちの個人差が大きく、それが年々ひどくなっているというのが現状なのですが、そういう子供たちが集団の中でいろいろな体験をしながら育っていく様子を見るのは喜びでもあります。子供たちを見る一方で、様々な事情を抱えている保護者もおられるので、入園前の家庭とのつながりということも考えなければいけないと思います。また、幼稚園を修了した後、小学校、中学校と育っていく子供たちも見守りたいという思いもあり、この会に参加していました。

この会で話し合われる教育基本構想の計画は、全ての子供たち一人一人が希望を持って将来に向かって伸びていく上で大変重要なので、とても興味を持っていたのですが、地域の方々を含めて、皆さんが練馬区をとても愛しておられ、また、子供たちのことを真剣に考えてくださっているということが分かり、とても勉強になりました。この計画を作ったことで終わりにせず、ここに書かれていることを幼稚園という立場の中で実現していけるように、今後とも頑張っていきたいと思っています。

【委員】

私は、子供がゆとり世代だったのですが、来年からは、また土曜日の授業を増やすということで、教育環境がどんどん変わる中で子供を育ててきました。

今回は学校応援団という立場で参加したのですが、地域で活動をしていると、学校や地域による違いが大きいのということも練馬の特徴だと感じますので、もう少し学校同士で連携をとって、同じような形で進めるようにしてほしいと、ずっと思っていました。今回の計画では、そういう部分も全部網羅して、良い方向に動いていくことを期待しています。一方、主任児童委員という立場からは、家庭による格差も非常に感じています。

また、小学校受験をするお子さんも増えている中で、中学校も選択制になり、練馬区は地域ということはどう考えているのだろうと非常に疑問に思っていたのですが、最近では、外部からの入学者数を制限するようになりましたし、今回の計画の中にも「地域の絆」ということがうたわれており、練馬区も教育委員会も随分と地域を大事にするようになったと感じています。

ここに参加させていただき、非常に勉強になりました。皆さんのいろいろなお話を聞くことができ良かったと思います。

【委員】

私は主任児童員の立場として参加しましたが、問題を持つ家庭や、精神的な疾病を抱えて子育てに悩んでいる母親は本当に多く、今も増え続けています。この答申にあるように、子育てに関する親の学びの場や、話し合いの機会をどんどん増やしていただき、子ども家庭支援センター等の関係機関との連携もとっていただいて、良い方向に進んで

いくことを切に望んでいます。

地域での活動もしているのですが、この場に参加したことで、それぞれの立場で何をすればいいのかということが、しっかり分かったように思います。非常に勉強になりました。

また、この場に参加して、熱い思いを持った方がこんなにいらっしゃるということが分かり、非常に勇気付けられましたし、夢も持つことができました。大人が夢や希望を持たないと、子供にも伝わらないと思いますので、私も夢や希望をしっかりと持って、子供に向き合っていきたいと思っています。それが練馬区の子供たちの健やかな成長や、教育の向上につながり、さらに地域の絆を深めることで、練馬区の子供たちが素晴らしい大人に成長していくことを期待しています。

【副座長】

これまでいろいろな立場で教育に関わってきましたが、この会では様々な立場の方の思いをお聞きすることができ、非常に深いものを感じました。その中には、今まで気が付かなかった部分もありましたし、逆に、これまで考えていたとおりだと確信した部分もありました。

これからの教育を語るときに、現状や課題の解決を考えることはもちろんですが、今の委員のご意見のとおり、教育に夢を持って、目指すものを高く掲げていくということが、今後ますます求められるということ、この会を通して強く感じました。

これからも勉強を続けながら、私の立場で、様々な形で貢献できればと思っています。

3. その他

事務局より、今後の予定について説明

【学校教育部長】

8月29日に第1回を開催し、その後、本日の第5回まで、練馬区の今後10年間を通じて目指すべき教育の姿と、その姿を実現するための長期的な重点施策に関してご検討をいただきました。練馬区における教育の現状のデータや、区民意識意向調査、保護者アンケートの結果等のデータに加え、委員お一人お一人の生活に根差した教育観を基本としてご検討いただいたことに感謝します。

本日は答申案を検討していただきましたが、先ほど、庶務課長からお話しさせていただいたように、本日頂いたご意見を踏まえて、さらに座長、副座長と検討をさせていただき、最終的な答申の完成版とさせていただきたいと思っています。そして、懇談会からの答申に記述された内容はもとより、その過程で議論された中身も参考にさせていただき、練馬区の教育振興基本計画を策定していきたいと思っております。

そして、その実施にあたっては、練馬区の抱える教育の課題が1つでも多く改善に向

かっていくよう、教育委員会として全力で取り組んでいきたいと思っております。

座長、副座長、委員の皆様、本当にありがとうございました。

【座長】

大変至らない座長でしたが、何とか最終段階まで来ることができました。これもひとえに委員の皆様方、事務局の方々のおかげと思っております。本当にありがとうございました。今、学校教育部長から話がありましたが、答申という形で1月に教育長のほうに皆さんの声を伝えに行きたいと思っています。

事務局におかれましては、この懇談会で出された様々な貴重な意見を是非施策に反映していただき、練馬区の教育が充実、発展することを強く願っております。

これまで、長い間、ご協力いただき本当にありがとうございました。以上をもって、練馬区教育振興基本計画懇談会を閉会いたします。

(終了)